

## 第 2 次有田町総合計画 基本構想

### 第 1 節

#### 〈有田町町民憲章〉

豊かな自然、悠久の歴史、類まれな景観に恵まれた有田町。わたしたちは、世界に誇れるまちの住民として、自覚と責任を持ち、時代を切り開く精神のもと、互いに手を取り合い、明日に向かってたくましく進むことを誓い、ここに憲章を定めます。

清流がもたらす みどり豊かな自然に親しみ 美しいまちをつくりましょう

ふれあいと思いを大切に し あたたかい心でもてなすまちにしましょう

歴史と伝統ある郷土を愛し 互いに学びあう

文化のかおるまちにしましょう

ふるさとが誇る ものづくりの志を高め 活力のあるまちをつくりましょう

共に助け合い 絆を深め 笑顔あふれるまちにしましょう

## 第2節

### 〈将来像〉

【第2回住民委員会2018（H28.12.14）】

#### 世代を超えたつながりがある

- ・ 4世代の町、有田 - 同居家族のすすめ
- ・ 子供がお年寄りから知恵をもらえる地域が支える町

#### 暮らす人がイキイキと支えあう

- ・ なんでもありたな、新たな町
- ・ 活気のある元気な町、有田
- ・ 歩く人が途絶えない町、有田
- ・ ワクワクする町、有田
- ・ 町民みんながガイドな町、有田

#### 安心して住む環境が整っている

- ・ 住みたい街ランキングベスト10入りする魅力がある町、有田
- ・ 若者が仕事があってもなくても、生活できる町、有田
- ・ 人口の伸び率が日本一の町、有田
- ・ 税収が安定する町、有田
- ・ 空き屋敷0な町、有田

#### 産業が生み出されている

- ・ ブランドな町、有田
- ・ スーパーな町、有田
- ・ 佐賀県のハブになる町、有田
- ・ 田舎な町、有田

⇒地域の中で高齢者と若い世代の世代間交流が起こり  
地域外から人があつまり観光・産業・商業が賑わい  
若い世代の人たちが住みやすく、誇りに思える

**世界ブランドの町、有田**

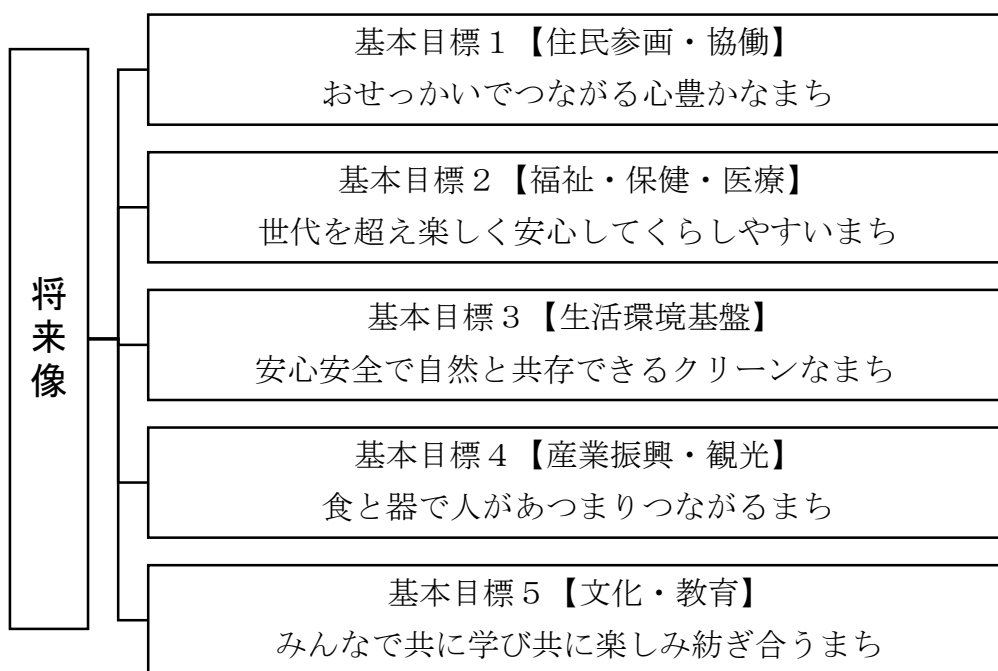


(A案) 世界に誇れる賑わいと絆のまち 有田

(B案) ひとつながりひとが集う世界ブランドのまち 有田

(C案) ひとつながり躍動する世界ブランドのまち

(D案) 世代を超え、世界に誇れるつながりと活気のまち 有田



## 第3節

### 〈目標人口〉

有田町は、重要伝統的建造物群保存地区、棚田などをはじめとした豊富な観光資源、世界に誇る“有田焼”に象徴される陶磁器産業、佐賀大学地域デザイン学部創設に伴う有田キャンパスの開設など、多くの強みを有しています。この強みを最大限に活かしながら、目指すべき将来の方向を踏まえ、総合的な取組みを行い、将来人口を目指していきます。

#### 【将来目標人口】

2027年（平成38年）に19,000人程度を目指します

#### 【推計条件】

- ◆合計特殊出生率：現在の1.68を2040年（平成52年）に2.07へと段階的に改善し、それ以後は一定とする。
- ◆社会移動：段階的な若者夫婦の転入や高校卒業時の転出抑制などで2025年に社会増減が増加に転じ、2040年に約100人の転入超過とする。

図は、将来人口推計を示したもので、社会増減の実績に基づく移動率と国の長期ビジョンに基づく合計特殊出生率<sup>注</sup>で推計したものが「実線」です。この国立社会保障・人権問題研究所の推計を基に試算した総人口は2010年の20,909人から2040年には15,438人に、2060年には11,697人となり2010年人口の約56%の人口となる結果となりました。

今後は、出産・子育ての支援を継続し、合計特殊出生率を現在の1.68から2040年までに2.07（人口置換水準<sup>注</sup>）に段階的に改善するとともに、雇用の創出や地域の魅力を高める取組みを進めるにより、人口の転出超過を若者夫婦の転入や高校卒業時の転出抑制などで現在の50%とすることで、2040年には17,483人に、2060年には15,780人となり2010年人口の約75%の人口規模を維持することを目指します。

注：合計特殊出生率・・・15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、一人の女性が一生に産む子供の平均数を示す。

注：人口置換水準・・・人口の規模及び構造が安定するための条件となる水準のこと。

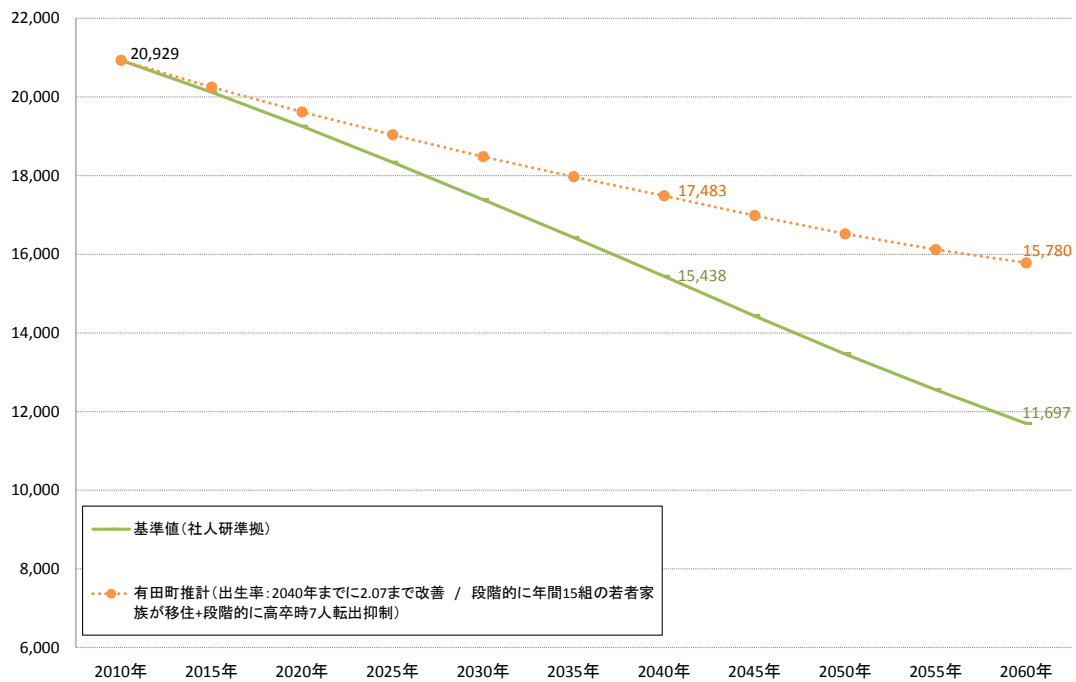


図1 社人研推計及び有田町推計

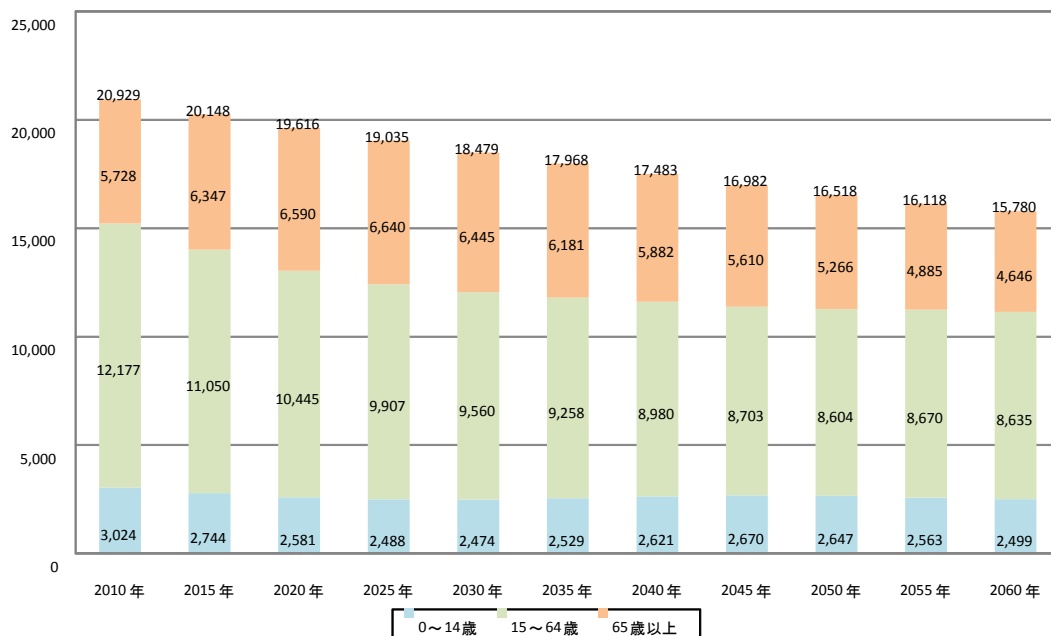


図2 有田町推計における年齢3区分別人口の推移

## 第4節

### 〈基本目標〉

【第4回住民委員会2018（H29.3.1）】

#### 【住民参画・協働】おせっかいでつながる心豊かなまち

グローバル化や情報化により、社会情勢の変化や価値観の多様化が進む中、行政需要はますます複雑かつ高度化しています。こうした行政需要に対応できる行政サービスを効果的、効率的に提供し、活力あるまちづくりを行っていくためには、住民と行政の共通認識のもと相互の特性を尊重し、協働による行政運営を推進していくことが重要です。

このため、住民の一体感と協働意識を醸成するとともに、住民の声を政策決定過程に反映し、住民同士や住民活動団体（CSO）、民間企業や大学などの教育研究機関が互いにおせっかいをやき積極的に地域の課題解決に参画することで、地域力の向上を目指し、住民と行政の協働によるまちづくりを進めます。また、町内外への行政情報の発信やタウンプロモーションを強化します。

さらに、すべての住民が真の豊かさを享受できる地域社会を築くために、男女が社会の対等な構成員として尊重され、互いに理解しあい、ともに輝くまちづくりを目指す、男女共同参画社会の実現を推進します。

また、人口減少社会のなかで多様化する住民ニーズや地方分権に的確に対応するために、行政事務の情報化、組織の効率化、遊休資産の活用、職員の資質向上などを積極的に進めると同時に、他自治体との地域間連携や広域行政を推進し、行財政運営の高度化、効率化、財政基盤の強化を図ります。同時に、ふるさと納税やクラウドファンディングなどを手段の一つとした寄付文化の醸成を推進します。

## 【福祉・保健・医療】世代を超え楽しく安心して暮らしやすいまち

更なる人口減少と少子高齢化が避けられない中で、すべての住民が健康寿命を伸ばし、生涯を通じて健康で心豊かに暮らせるよう、ライフステージに応じた健康づくり、介護予防を推進するための支援を、老人クラブをはじめ、地域や住民活動団体等と連携するとともに、社会福祉協議会の協力を得ながら、さらに強化していきます。

住民一人ひとりが世代を超えてともに支えあい、ふれあいながら日常の生活で、積極的に健康の維持、増進に取り組めるよう行政、住民及び地域や職場などが協力して健康づくりを行っていき、健康に対する意識を一層高めてもらうための健康診査・健康相談をさらに充実させます。

高齢者や障害者などが安心して日常生活を送るために、福祉サービスの充実とともに、人材活用や社会参加を推進します。また、住民に良質で適切な医療を提供するために、高度医療の充実に努めると同時に、かかりつけ医による在宅医療体制の整備により地域と福祉サービスが連携し、地域包括ケア体制を構築します。

明るい明日を担う子どもたちがいきいきと健やかに育つためには、親だけでなく学校、企業、行政、そして地域のすべての人が子育て支援に関わることで、安心して子どもを産み、子育てができるまちづくりを目指します。そのために情報発信の強化や交流・相談の場の更なる充実を図ります。

## 【生活環境基盤】安心安全で自然と共存できるクリーンなまち

有田町は、有田川や黒髪山系などの豊かな自然に恵まれ、その豊かな自然が地域の産業や文化をずっと育んできました。地域の貴重な資源であるこの自然環境を守り育てるまちづくりが求められます。

そこで、将来にわたって快適に生活環境を維持していく資源循環型社会の構築に向け、住民と事業者、行政の役割を明確にし、ごみの排出抑制や分別、再利用、再資源化（リサイクル）を推進します。また、下水道整備等による水質保全や森林育成、環境美化など、自然と調和した総合的な環境保全施策を推進するとともに、自然環境や生活弱者に配慮し、地域の均衡ある発展を考慮した計画的な生活基盤整備を進めることで、すべての住民が自然と共存して生活するクリーンなまちづくりを目指します。

安全で暮らしやすい生活基盤の確立と産業・経済効果を考慮した道路網の整備と長寿命化を進め、日常生活の利便性向上と交流の活性化のための、公共交通体系の整備充実を進めます。

また、住民の安全な暮らしを守るために、消防・救急・防災体制をさらに整備します。この10年の間に、東日本大震災や熊本地震が発生し、私たちは甚大な被害を目の当たりにしました。このような大規模災害はもとより、火災や大雨などに対処するために、総合的な防災体制の構築と地域の防災力の充実、強化を推進します。



## 【産業振興・観光】食と器で人が集まりつながるまち

有田町は、これまで人と人、地域と地域のつながりを大切にし、地域住民の交流や近隣地域との連携、国際交流を進めてきました。また、世界に通用する陶磁器文化やロマン溢れる歴史、美しい自然景観など魅力的で多彩な観光資源を有しており、これらの資源を活かした観光の振興を図ることが期待されています。このため、有田焼創業400年事業の遺産（レガシー）を活用しながら、次の100年のために住民間の交流をさらに深め、町の一体性を確保することで、食（農業）と器（有田焼）が融合した産業の活性化と交流人口の増加を目指します。

世界規模での地域間競争が激しさを増す中であって、他地域との競争に勝ち残り、若年層の町外への流出を防ぐためにも、町内産業が活性化しなければなりません。そこで、400年の伝統技術によって培われてきた陶磁器産業や豊かな自然を活かした農林業をはじめとした地域産業の技術革新や付加価値の向上、後継者の育成による産業の活性化を目指すとともに、新たな産業の創出や企業誘致を推進します。

また、新たな時代に対応できる持続可能性のある農業の実現と農村の活性化を図り、農林業の多面的な機能の保全と活用に向けて、生産者、関係機関・団体、行政が一体となり、農林業の振興施策を推進します。

通年観光の実現を目指し、地域資源をさらに磨き上げるとともに、おもてなしの心を醸成します。また、地域の偉業や偉人を顕彰するとともに、積極的に町外へ情報を発信することで、交流の拡大に努めます。これらにより、観光を有田町の最も重要な産業の一つとして育成します。

## 【文化・教育】 みんなで共に学び共に楽しみ紡ぎ合うまち

新しい時代に即応した活力あるまちづくりを進めるためには、国際化や情報化が進展する時代にふさわしく、地域の将来を担う青少年を育成するとともに、世代を超えて、地域の歴史や文化を良く学び、ふるさとに誇りを持つことが重要です。

このため、学校・家庭・地域が一体となり、次代を担う子どもたちの個性や能力をのばし、社会の変化の中で主体的に生き、自立していく力を培っていくための教育環境づくりを推進します。

さらに、地域の歴史や伝承芸能、地域文化、芸術に接する機会を拡大し、郷土愛や文化のまちにふさわしい感性を育むとともに、地域住民の互いに助け合う心を大切にします。また、子どもから高齢者までいつでも気軽に参加できる文化活動や学習活動、スポーツ活動の機会を拡充し、生涯学習と生涯スポーツの振興を推進します。

有田町には、日本の伝統文化、とりわけ陶磁器文化の発展に大きく寄与した400年の歴史があります。この歩みを現代に伝える古窯跡や有田内山の建造物群をはじめとした多くの文化財を後世に残し伝え、陶磁器文化や農村文化など地域の個性的な文化の保全などを支援するとともに、これらを観光やまちづくりなどに多面的に活かしていきます。